

て多くの交流がなされていました。

そして茶の湯を大成した人物が紹鷗の弟子、千利休（一五三二〜九二）でした。利休は胡銅鶴首花入、瀬戸捻貫水指、唐物円座肩衝、古三島茶碗など多くの伝来道具を所持していましたが、瀬戸や伊賀・信楽・美濃・備前の窯に本格的な茶陶の注文を行ないます。また利休は晩年、豊臣秀吉の権力のもと独自の侘びの茶を進めていきます。茶室の広さも二畳、一畳台目と狭め、窓を少なくし、躰口を考案するなど、精神性の高さを追求しました。そして茶道具も侘びにかなうものを新たに注文し、取り合われます。長次郎に樂茶碗を、与次郎に釜を、盛阿弥や秀次に棗を作らせます。さらに自ら竹の花入を切り、魚籠を花入に転用し、竹の蓋置や木地曲の建水を茶席に用いるなど、茶の湯道具の改革を行なったのです。以後茶人は利休の定めた形式を基本として茶の湯を発展させており、利休の影響力の強さが感じられます。

本書では茶の湯に用いられる茶道具を種類ごとに分類し、それぞれの歴史的な流れを最初に記し、代表的な道具を取り上げてわかりやすく解説しました。

この本を通して種々の茶道具について知っていただき、茶の湯が総合芸術としていかに優れているかを認識してもらえれば幸いです。そして自らお茶会、お茶事を催す際に役立つ書となることを願う次第です。

令和八年六月

目次

はじめに 2
写真撮影 装丁・デザイン 8

床の間の茶道具

掛物

▼墨蹟	9
虚堂智愚墨蹟 法語（破れ虚堂）	10
宗峰妙超墨蹟 秋風偈	11
▼一行物	12
一休宗純一行書 「薰風自南来」	12
澤庵宗彭一行書 「直透萬重関」	13
▼古筆 — 古筆切・色紙	14
高野切第一種 伝紀貫之筆	14
寸松庵色紙 伝紀貫之筆	15
石山切 伊勢集	16
小倉色紙 藤原定家筆	17
▼古筆 — 懷紙・歌仙絵	18
熊野懷紙 飛鳥井雅経筆	18
佐竹本三十六歌仙絵 源順像	19
▼消息	20
千利休筆狂歌入消息 芝山監物宛	20

小堀遠州筆消息 淀屋个庵宛	21
▼唐絵	22
蜀葵遊猫図 伝毛益筆	22
寒山拾得図 因陀羅筆 楚石梵琦賛	23
▼日本の絵画	24
破墨山水図 雪舟等楊筆	24
松下渡唐天神像 狩野元信筆	25
業平東下り図 俵屋宗達筆	26
水辺白菊図 土佐光起筆	27

花入

▼唐物花入	28
胡銅象耳花入 銘キネナリ	28
砂張釣舟花入 銘淡路屋舟	29
▼唐物陶磁器花入	30
青磁筍花入	30
古染付高砂手花入	31
▼和物陶磁器花入	32
古伊賀花入 銘からたち	32
備前筒花入 銘残月	33
▼籠花入	34
手付南京玉入籠花入	34
桂川籠花入	35
▼竹花入	36
一重切竹花入 銘初音 小堀遠州作	36
置筒花入 銘遅馬 藤村庸軒作	37
【付録】 主な花入の形状と種類	38

釜・炉縁・炭道具

釜・炉縁

▼芦屋	39
芦屋霰地松図真形釜	40
芦屋遠山五匹馬図真形釜	41
▼天命	42
天命筋釜	42
天命責紐釜	43
▼京釜	44
阿弥陀堂釜 辻与次郎作	44
十二支文腰霰平丸釜 大西浄林作	45
▼炉縁	46
沢栗炉縁 久以作	46
高台寺蒔絵菊桐文炉縁	47
香合	48
▼唐物陶磁器香合	48
交趾銭亀香合	48
交趾大亀香合	49
青磁桃香合 銘三千歳	50
呉州染付人物文松皮菱香合	51
▼和物陶磁器香合	52
織部串団子文香合	52
伊賀伽藍石香合	53
色絵鶴香合 野々村仁清作	54

檜梅香合 尾形乾山作

▼唐物漆器香合

紅花緑葉牡丹文香合

青貝牡丹孔雀文香合

▼和物漆器香合

松蒔絵五倍子箱錫縁香合

▼好み物の香合

藤村庸軒好回也香合

【付録】「形物香合相撲」

炭道具

▼炭斗

唐物伏見籠炭斗

瓢手付炭斗 銘教外別伝

▼羽箒・鍔・釜敷

白鷺羽箒・野雁羽箒

大角豆七宝唐草銀象嵌鍔

蜻蛉鍔 明珍政幸作

▼火箸・灰匙

桑柄桜皮卷火箸・桑柄灰匙

桐唐草銀象嵌火箸 徳元作・七宝灰匙

▼灰器

灰器 銘秋 長次郎作

南蛮甕の蓋灰器

雲華灰器 上田宗品作

▼樂茶碗

長次郎赤樂茶碗 銘無一物

光悦黒樂茶碗 銘七里

▼和物茶碗

奥高麗茶碗 銘秋夜

黒織部茶碗

高取茶碗 銘香久山

色絵薩摩錦帯文茶碗

色絵波に三日月文茶碗 野々村仁清作

古清水色絵牡丹文茶碗

茶杓

▼利休以前

武野紹鷗共筒茶杓

羽測宗印共筒茶杓

▼利休の時代

千利休共筒茶杓 銘ホトトギス

蒲生氏郷共筒茶杓

▼利休以後の茶匠

小堀遠州共筒茶杓 銘最上川

片桐石州共筒茶杓 銘五月雨

千宗旦共筒茶杓 銘松風

杉木普斎共筒茶杓 銘百六

【付録】茶杓の部分名称

蓋置・建水

▼蓋置

五徳蓋置 徳元作

点前座の茶道具

水指

▼唐物陶磁器水指

南蛮芋頭水指

南蛮縄簾水指

呉州染付菱馬水指

古染付桜川水指

▼和物陶磁器水指

信楽一重口水指 銘若緑

備前緋襷水指

高取月形水指

色絵菊水図水指 野々村仁清作

▼漆器水指

真塗手桶水指 余三作

茶入

▼唐物茶入

漢作唐物 国司茄子茶入

漢作唐物 上杉瓢箪茶入

▼瀬戸茶入

古瀬戸肩衝茶入 銘円乗坊

瀬戸真中古 面取手茶入 銘染色

瀬戸金華山 真如堂手茶入 銘真如堂

瀬戸破風窯 正木手茶入 銘正木

瀬戸後窯 宗伯茶入 銘不聞猿

胡銅笹蟹蓋置

胡銅菊蓋置

青磁三人形蓋置

青磁夜学蓋置

古染付千切蓋置

千利休竹蓋置

▼建水

砂張建水

南蛮内洪建水

黄瀬戸建水 銘大脇差

唐銅合子建水 名越弥五郎作

懷石道具・菓子器・蓆盆

懷石道具

▼皆具

真塗飯椀・汁椀 盛阿弥作

網絵懷石道具 五代中村宗哲作

▼向付

祥瑞杓形向付

高取片身替釉洲浜形向付

▼鉢

青磁端反鉢

天啓赤絵羅漢図反鉢

備前反鉢

▼国焼茶入

膳所耳付茶入

薄茶器

▼棗

利休形大棗 盛阿弥作

松ノ木棗

▼蒔絵の茶器

枝垂桜蒔絵嵯峨棗

桐文蒔絵螺鈿雪吹 山本春正（初代）作

▼好み物の茶器

小堀遠州好 桐唐草丸棗 近藤道恵作

松平不昧好 高蒔絵大菊棗 原羊遊斎作

▼替茶器

南京赤絵蓮鷺文手桶形茶器

堆朱人物草花文中次

茶碗

▼唐物茶碗

曜変天目

砧青磁茶碗 銘満月

染付雲堂茶碗

祥瑞干支文字洲浜形茶碗

▼高麗茶碗

大井戸茶碗 銘有樂

堅手茶碗 銘秋かぜ

彫三島茶碗

御本茶碗 銘ねぢぬき 船橋玄悦作

織部洲浜形手鉢

▼酒器

祥瑞捻文瓢形徳利

絵刷毛目蔓草文徳利

刷毛目ぐい呑

瀬戸六角ぐい呑

志野草花文四方ぐい呑

菓子器

▼主菓子器

縁高 十一代飛来一閑作

錆絵染付梅散文蓋物 尾形乾山作

▼干菓子器

堆黄龍文丸盆

存星菊花形盆

蓆盆・火入・蓆入

松ノ木行李蓋蓆盆

志野笹に羊歯文火入

独楽蓆入

【付録】

掛物の表装の名所 140／表装の真・行・草 140／茶入の名所 141／仕覆の名所 141／茶入の窯分一覧表

141／棗の部分名称 142／棗・薄茶器の形状一覧表

／茶碗の部分名称 143／茶碗の形状 143